

# シリーズ第11回 この本をあなたにも薦めたい

## 『春の数えかた』 日高 敏隆

日本には、寺田虎彦を筆頭に理系学者にして名文家があまいたる。

今回、日高敏隆の著書を取り上げたのは日高氏が昨年逝去されたので、日高敏隆の新刊はもう読めないという嘆息とともに一度は手にとってみたい著者として紹介しします。

略歴は1930年東京生れ。東京大学理学部動物学科卒。東京農工大・京都大学教授、滋賀県立大学学長、総合地球環境学研究所所長を歴任。動物行動学者。

この著書は滋賀県立大学学長時代に書かれた。代表作『チョウはなぜ飛ぶか』の著書名でもわかるように、どの著書も初々しい好奇心で満ちている。

好奇心を持つことが科学者の条件であると納得させられる。

「なぜ同じ種の植物は、みなきまった長さの花茎を伸ばして花をつけるのだろうか。(赤の女王)」 「ふと疑問に感じたのは、ファッションの一つの流れであるコム・デ・ギャルソンのことだ。女っぼさをおさえて少年の雰囲気を出しているこのファッションは、異性への魅力という点でも、同性への攻撃性という点でも、機能的に考るのではないか？(動物行動学としてのファッション)」 「虫のような変温動物たちは(略)やはり春になれば毎年ほぼ同じ時期にちゃんと姿を現してくる。それはなぜか？(春の数えかた)」。

発育限界温度を超える気温だけを積算して卵から孵ったり、サナギからチョウになったりするということを、“虫たちの春の数えかた”と説明する。この詩情豊かで平易な表現。入り口は低く広く読み手のレベルによって内容の大きさ深さが変容していく。椎名誠の解説がまたよい。『人間は生きていく過程で「モノを考えていく」という血のわきたつような体験ができる、ということを教えられた』という。小学生から熟年世代まで老いも若きも手にとって欲しい良書である。

財団法人 伊藤青少年育成奨学会  
常務理事 田代 久美子



『春の数えかた』  
著者：日高敏隆  
出版社：新潮文庫

### 奨学生の年度別、出身高等学校別明細

出身高等学校	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	合計
恵那	名古屋大 早稲田大 明治大	京都大 慶応義塾大 静岡大 新潟大	名古屋大(2人) 金沢大 信州大 静岡大	名古屋大(2人) 金沢大	12
恵那農業	—	—	—	名城大	3
中津	立命館大 三重大	—	—	—	2
中津商業	白鷲大 京都橘大	—	中京大	南山大	4
土岐商業	—	滋賀大	中央大	南山大	3
坂下	—	—	—	中部学院大	1
多治見北	愛知県立大 岐阜大	立教大 名古屋大	名古屋大 東京大 千葉大	慶応義塾大 同志社大 名古屋市立大	10
多治見	岐阜大	—	—	—	1
瑞浪	—	—	南山大	—	1
瑞浪麗澤	千葉大	—	—	—	1
可児	静岡大	—	南山大	—	2
加茂	—	—	—	愛知大	1
加茂農林	—	—	—	宮崎大	1
美濃加茂	名古屋大	—	—	—	1
関	名古屋大	岐阜大	神戸大	一橋大 名古屋大	6
武義	—	名古屋大 名古屋大	—	—	1
岐阜	津田塾大 岐阜大	東京大 中央大 名古屋大 早稲田大	岐阜大 広島大	—	8
岐阜北	名古屋市立大	—	—	同志社大 名古屋市立大 筑波大 新潟大	6
加納	岐阜大 信州大	大阪大	南山大	新渥大	5
長良	—	名古屋市立大	—	名古屋大	2
岐山	南山大	慶応義塾大	岐阜大	東京学芸大 南山大	5
県立岐阜商業	中央大	中央大	—	中央大	3
岐阜各務野	—	法政大	—	—	1
羽島北	—	—	岐阜大	—	1
岐阜女子	—	—	東北大	—	1
大垣北	東京大(3人) 京都大	大阪大 東北大	早稲田大	愛知教育大 東京大 金沢大 名古屋大	11
大垣南	—	岐阜大	—	岐阜大	2
大垣商業	—	—	中央大	早稲田大	2
大垣日大	—	—	滋賀大	静岡大	2
斐太	—	—	金沢大 山形大	金沢大 慶応義塾大 名古屋大 愛知教育大	6
吉城	—	岐阜聖徳学園大	—	—	1
高山西	—	—	藤田保健衛生大	—	1
瀬	—	国際基督教大	筑波大	—	2
合計	25	26	25	33	合計

**財団法人 伊藤青少年育成奨学会事務局**  
〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661-1  
TEL 0572-20-0800(直) FAX 0572-29-1168

## 平成23年度 奨学生募集中

～奨学金を通じて、本気で学びたい人を応援します～  
奨学生の選考方法を下記のように変更しておりますのでご注意ください



■支給金額・支給方法  
支給月額 30,000円(自宅通学・自宅外通学とも)  
※返還の必要はありません  
支給期間 最長4年(平成23年4月～)但し医学部生は6年  
振込日 4,5,6,7,8,9月分 6月中旬  
10,11,12,1,2,3月分 12月中旬

■募集人員  
大学生 30名程度(短期大学生を除く)

- 応募資格
- 新1年生であること (平成23年4月 四年制大学へ入学される方)。
  - 岐阜県出身または県内在住の方
  - 人物、学力ともに優れていること
  - 経済的理由により修学が困難であること

提出書類、選考基準等につきましては当財団ホームページ、事務局又は高等学校へお尋ね下さい。

E-mail: webmaster@ito-zaidan.or.jp  
U R L: http://www.ito-zaidan.or.jp/  
発行:財団法人 伊藤青少年育成奨学会  
印刷:トーヨー印刷株式会社

# 伊藤青少年育成奨学会

# 奨学会だより

**2010.10.1**  
**vol.11**  
年2回発行  
(4月・10月)

■平成22年度スポーツ振興事業贈呈式が行われました  
■先輩からの便り紹介  
■奨学生の声の紹介  
■奨学生の年度別・出身高等学校別明細  
■平成23年度奨学生募集

シリーズ第11回  
この本をあなたにも薦めたい

## 平成22年度スポーツ振興事業贈呈式 スポーツ振興事業費など 総額1,300万円を支援



財団法人 伊藤青少年育成奨学会  
理事長 伊藤 喜美

奨学会は去る7月2日、多治見市東町のセラミックパークMINOで、平成22年度の贈呈式を行った。奨学会は平成11年設立後、積極的な活動をしている高校の運動部を対象に、毎年部活動費の贈呈を実施している。贈呈式には来賓として岐阜県教育委員会 林俊彦教育次長をはじめ学校関係者ら約40人が参加。伊藤理事長は「青少年育成は社会の使命。少しでも手助けしたい」

とあいさつした後、学校関係者らに目録を手渡した。今年度の援助対象団体は右のとおり

設立より11年間の事業費

	奨学金	スポーツ	国際交流	その他 (伊藤喜美賞を含む)	合計
平成12年度	4,800	13,100	3,000	—	20,900
平成13年度	9,600	10,700	3,000	500	23,800
平成14年度	21,600	6,100	3,000	200	30,900
平成15年度	28,800	10,000	3,000	200	42,000
平成16年度	25,200	10,000	13,000	1,300	49,500
平成17年度	26,280	11,500	3,000	4,000	44,780
平成18年度	31,080	10,400	3,000	3,000	47,480
平成19年度	35,040	11,300	—	—	46,340
平成20年度	37,380	13,310	1,500	2,000	54,190
平成21年度	37,080	8,700	—	7,000	52,580
※平成22年度	39,600	12,500	—	1,000	53,100
<b>合計</b>	<b>296,460</b>	<b>117,610</b>	<b>32,500</b>	<b>19,200</b>	<b>465,770</b>

※は見込み  
恵那市中央図書館～伊藤文庫～について  
当財団は平成19年度事業として上記事業のほか恵那市へ図書館を寄贈しました。建物10億円ならびに23,000冊の書籍、運営費として1,500万円寄贈。総額は合計で101,500万円です。

（財）伊藤青少年育成奨学会様  
盛夏の候、貴財団におかれましてはますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。  
今回は、県立岐阜商業高等学校男子バレーボール部を、(財)伊藤青少年奨学会スポーツ振興事業の支給対象校に指定していただき誠にありがとうございます。県立岐阜商業高等学校は、理由書にも書きまじったように、非常に部活動が盛んな学校であります。施設・設備面におきましては、必ずしも思われた環境ではありません。ですから、トレーニングではありましても、なかなかトレーニング器具がそろわず特に雨天時には体育館のトレーニングルームは生徒でいっぱいになり、器具を奪い合うような状況でした。そこで、スポーツ振興事業に申し込んだところ幸運なことに支給対象に指定していただきましたので、早速ベンチ・パーレーメーションボールなどのトレーニング器具を購入したいと考えています。本当にありがとうございます。  
さて、先日はスポーツ振興事業の贈呈式に参加させていただきました。主催者の挨拶の中で、伊藤喜美理事長が自己管理について話をされましたが、その話の中で大リーグのイチロー選手とワールドカップのサッカーの日本選手を比較されていたように、イチロー選手はあれほど一流になつて、いろいろな誘惑に負けないプロとしての自己管理術を心得ている。しかも、打席に立つ姿は、剣豪を彷彿とさせ、まるで悟りを開いた禅僧のようなおつちやっておられました。  
それに対して、ワールドカップを終え、閑空に帰国した日本選手団は、まるで優勝したかのような凱旋ぶりだったが、ベスト16というのは負けるべくして負けた結果で決てほめられるべきことではないはずである。また髪は毛は茶髪、耳にはピアスで、とてもスポーツ選手として自己管理できていますとは思えないとおつちやっておられました。その姿を見て日本人のプライドはどこへ行ってしまったのかと情けなく感じ、できることならNHKの龍馬伍の坂本龍馬の台詞ではないが「日本を今一度洗濯いたし申し候」という気持ちになつたとおつちやっておられました。  
このお話を聞かせていただき、私も高校生を指導する指導者の一人として、いふん感銘を受けました。普段から人間教育を主眼にせず、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなどの立ち居振る舞いから、利他の精神、感謝の心などを大切にするように指導しております。しかし、そういう指導がチームの強化を図つていくことは必ずしも最短距離でないのでは時間がかかるのですが、今回のお話を聞かせていただき、意を強くすることができました。今後も自分の信念を曲げることなく、精一杯生徒と向き合つて指導をしていきたいと思っております。今回は本当にありがとうございました。  
平成22年7月12日  
県立岐阜商業高等学校  
男子バレーボール部 顧問 小椋 正 男





# 先輩からの便り

紙面の都合により一部の方からの便りを掲載しました。

## 2010年3月ご卒業の方からのお便りです

### 今井 亮

東京大学工学部物理工学科卒  
(恵那高校卒)

拝啓 日差しが春の訪れを告げる頃となりましたが、貴奨学会ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この3月をもちまして私は大学を卒業することとなりました。入学からの4年間支援していただいた貴奨学会には大変感謝しております。貴奨学会のご支援のおかげで大変充実した大学生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

この4年間は授業のほかにも、サークルやアルバイトなど課外活動にも多く参加し、忙しいながらも充実したものとなりました。そのなかでも特筆すべきはやはり勉学についてのことです。大学ではそれまでの教育課程とは異なり、自分自身で何を学ぶべきかを考えることが必要とされました。それは難しいことではありましたが、反面楽しくもありました。

1,2年生の教養課程では様々な分野を横断的に学ぶことができ、幅広い教養を培うことができました。3年生にあがっての専門課程では専門である物理学をより深く学び、研究を行うために必要な礎を築きました。そして大学生活最後の1年間で行った卒業研究では事業仕分けでも取り上げられていた放射光施設Spring-8を用いた研究を行いました。1月には日本放射光学会でポスター発表を行い、学生発表賞をいただくことができました。

来年度からは東京大学大学院に進学する予定です。大学院では修士の学生としてさらに1段階高いレベルの研究をすることが求められます。また海外の学会での発表や国際学術雑誌への論文投稿なども機会があればぜひ挑戦してみたいと考えています。

このように充実した大学生活を送ることができ、大学で心置きなく学ぶことができたのは、温かく見守ってくれた家族、苦しいときに助けてくれた友人、そして貴奨学会の支援のおかげです。4年間のご支援ありがとうございました。

末筆ではありますが、大恩ある貴奨学会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬 具

\*\*\*\*\*

### 丹羽 力人

早稲田大学スポーツ科学部スポーツ文化学科卒  
(土岐商業高校卒)

大学4年間を無事終えることができました。これもひとえに貴奨学会のご支援があったからに他なりません。本当にありがとうございました。

大学4年間を振り返ってみると、目標であった「文武両道」を成し遂げることができたと思います。学業と部活動の両立。大変苦しい時期もありましたが、これを乗り越えたことというのは私にとって自信にも繋がりましたし、今後の人生においても大きな財産になると思います。

私は大学4年間を通じて、学び得たことが大きく分けて2つあります。

まず1つ目が「時間の使い方」です。学業と部活動の両立には、さほど多くの自由時間はありません。さらに寮生活となると自由時間は限られてきます。その中でもタイムスケジュールを把握し、学校生活と野球部生活で限られた自由時間の中でも「自分の時間」を設け、自分の中でオンとオフをうまく使い分けることができたと思います。その結果メリハリがあり、学業、部活動どちらも疎かにすることなく、充実した学生生活を送ることができました。

もう1つは「目標を持ち、目標を達成するために今できることを一生懸命行う」ことです。こんなことは当たり前のように感じますが、実は大変難しいことだと感じました。いきなり高みを目指しても土台がしっかりしていなければ高みへ行くことができません。そのことに大学生になってようやく気付くことができました。「千里の道も一歩から」まさにこの言葉通りです。日々の小さな積み重ねが大きな成果に結びつくことを身をもって感じるすることができました。

このように大学生活を通じて、上記の他にも多くの有益な経験を積むことができました。全国から集まった多くの人達と接することで刺激を受けましたし、知見を広めることができました。これらのことを可能にしてくださった貴奨学会には感謝の気持ちでいっぱいです。本当に4年間ありがとうございました。

### 高田 順子

京都大学大学院工学研究科材料化学専攻  
(大垣北高校卒)

拝啓 春暖の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成17年4月に京都大学に入学し、平成21年までの4年間、貴奨学会の奨学金を受けさせて頂いた高田順子と申します。

このたびは、4年間の奨学金のご支援に対し、一筆御礼申し上げたく、近況報告も兼ねましてお便りいたしました。

お陰様で、平成21年3月に無事京都大学工学科工業化学科を卒業し、京都大学大学院工学研究科材料化学専攻に進学し、1年が経ちました。現在、高分子材料化学講座・生体材料科学分野の研究室に所属し、糖合成を専門に毎日研究に励んでおります。研究は失敗も多く、思い通りにいきませんが、自らの手で分子構造をさまざまに変化させ、新しいものをつくり出していくことに面白さを感じています。日々、試行錯誤を繰り返しながら残り1年の学生生活で研究成果が出せるよう努力したいと思っています。

また、私事ではございますが、就職先として第一志望の化学業界の会社から内々定を頂くことができました。大学で学んだ化学の知識と研究に対する取り組み方を生かしたいと考え、化学メーカーで研究開発の仕事がしたいと思い、就職先を選びました。将来は人々の暮らしを向上させるモノづくりに貢献したいと考えています。

4年間の大学生活を支援してくださった理事長伊藤喜美様、伊藤青少年育成奨学会の皆様に、心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。末筆ながら、貴奨学会の皆様のみますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

敬 具

\*\*\*\*\*

### 佐野 正和

慶應義塾大学経済学部経済学科卒  
(岐阜高校卒)

数日後に入社式を控えた今、4年間を振り返ると、様々な思い出が走馬灯のように浮かんできます。楽しいこと、嫌なこと、悲しいことなど多々ありましたが、今となっては全てが良い思い出です。

大学入学当初は、新しい環境での生活に不安な気持ちで一杯でしたが、新しい友人ができることで、毎日が明るくなってきたことを今でも覚えています。定期試験前に共に勉学に励んだクラスの仲間、4年間で最も多くの時間を過ごしたサークルの仲間、4年間続けたアルバイト先の仲間、3年次から所属したゼミの仲間。多くの仲間に支えられ、幸せな毎日でした。

勉学におきましては、3年次からのゼミ活動が最も印象に残っています。3年次はグループ論文「介護ビジネスの行方」、4年次は卒業論文「投資信託における資産運用」を執筆し、授業はそれぞれの論文を基に、ゼミ員40人で行われる議論が中心でした。様々な考えを聞くことで多くの刺激を受け、意見交換することで互いの考えを深めることができました。また、企業を訪問しての課外授業、OBを招いてのディスカッションなど、多くの貴重な経験をすることができ、就職先として資産運用会社を選択した理由も、ゼミでの授業にありました。

サークルやアルバイトなどにおきましても、ゼミ同様多くのことを学ぶことができました。内容についても述べたいのですが、述べたいことがありすぎるため、割愛させて下さい。申し訳ありません。

私にとっての大学生活は、幼稚な表現ではありますが、夢を見ていたような楽しい時間でした。こんなにも素晴らしい時間を過ごすことができたのは、貴奨学会のご支援をいただくことができたからです。4年間ご支援をいただき、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

4月からは社会人としての生活が始まります。気持ちを切り替え、目標に向かって日々精進していきます。そして、いつの日か、お世話になった貴奨学会、そして故郷である岐阜県に何かしら貢献したいです。

非常に簡単ではございますが、大学生活の感想とさせていただきます。またご報告させていただきます。

# 奨学生の声

.....2010年4月までに提出された学業状況報告の一部です。

## 澤田 花衣

東北大学理学部物理系2年(岐阜女子高校卒)

後期は「自然科学総合実験」という、基礎実験を行う科目がありました。毎週、物理・生物・化学などの様々な分野に関係する実験をする科目です。導電性高分子の合成、環境放射線の測定、DNAによる生物の識別…といった、物理学を学んでいく上ではおそらくできないであろう実験を、1年次で行ったのは非常に貴重な経験でした。その中で実験を指導して下さった先生がおっしゃったことが印象に残っています。「どこまでを科学としていいのかが最大の問題だ」。科学で仕組みを解明し、普遍性を証明することはできる。しかし、その

## 光村 茉莉

岐阜大学医学部看護学科2年(岐山高校卒)

後期は、専門科目の授業が増え忙しくなりましたが、同じ科の友だちと互いに切磋琢磨して専門知識や技術を学びました。学内実習では、ベッドメイキング、寝衣交換、足浴、経管栄養法、排泄ケアなどをやり、実際に自分が患者役になることで患者さんの痛みや恥ずかしさなどが分かりました。そして、私たち看護師は患者さんの露出を最小限にして、短時間で的確に仕事をこなさなければ満足のいく看護を提供することはできないと思いました。ベッドメイキングに関しては、授業の空き時間や昼休みにもベアの人と何度も練習しました。シーツの広げ方やベッドのコーナーの作り方だけでなく、シーツのシワを伸ばす時の力を入れる方向や看護師の作業域や立ち位置、重心の使い方など一つ一つにこだわ

## 田中 恵理

中央大学商学部会計学科3年(県立岐阜商業高校卒)

学業の面では、長年の目標であった公認会計士試験に合格することができ、高校から今まで積み重ねてきた努力がちゃんと結果に結び付いたことをとても嬉しく思います。また、この合格は自分一人では絶対に得られなかったものであり、今まで応援してくれた家族や友人や恩師があつてこそのものだと感じています。これからは、応援してくれた人々にさらなる自分の成長が見せられるように努力するとともに、受験経験を生かした後輩の指導にも力を入れていきたいと思います。そして、3年生からは本格的にゼミ活動が始まるため、受験の範囲では勉強できない財務会計の知識を身につけていきたいと

## 鈴木 一也

名古屋大学工学部機械・航空学科4年(恵那高校卒)

この半年間はTOEICで高得点を取るために英語を頑張ってきました。時間のある日は単語をひたすら勉強し、購入した単語帳を一冊覚えきりました。また、春休みにはECCの講座も受けました。結果、大幅に点数を上げることに成功しました。自分の中で設定していた最低目標は達成することができました。しかし、まだ点数を伸ばせる余地があるように感じるので、もう一度だけチャレンジしようかなとも考えています。先日、研究室配属が決定しました。僕は将来的に自動車メーカーに入ってエンジンの開発に携わりたいと考えていたので燃焼の研究室を希望しました。人気のある研究室で希望者が超過してしまったので、面接選考で1人移動しなければならぬ事態となりましたが、無事僕はその研究室に入ることができました。研究テーマも決まりまして、「ディーゼル排気ガスの計測と素材開発」というものになりました。エンジンを開発するのではなく、エンジンから排気されたものを処理

## 荻原 ゆかり

東京大学文学部行動文化学科4年(大垣北高校卒)

2年間の集大成である卒業論文のテーマを検討しています。私は、「裁判員裁判」と「被害者参加人」が、制度にどのように影響するかを実験で明らかにしようと考えています。法曹界では、被害者参加人が、一般市民である裁判員に感情的に訴える結果、被告への量刑が不当に重くなる可能性を指摘しています。しかし、この懸念を支持する実証的な研究は少なく、また「被害者」をあまりに軽んじてきた日本の司法制度を再考する必要があると言えます。ビデオ等を用い、裁判員役の被験者が本当に被

普遍性がなぜ生まれたのかという問題、また、特に医療や環境の分野では、数値化された結果は出ても、人の価値観によって、その受けとめ方、次にとるべき行動が異なってくる、という問題…とても考えさせられるお話でした。この経験を生かして、総合的に事象を考える目というものを意識していきたいです。

<b>奨学会からのコメント</b>	指導教官はさすがに東北大学の先生、寒い国では哲学が生まれる。そこまで踏み込んで思考する訓練は若いうちでなければ身につかない。疑問を解決できなくても継承していく足がかりを作るのも大切な事。
-------------------	---

リベッドメイキングをします。少しぐらいのシワなら大丈夫だと思っいても、寝たきりの患者さんなどは同じ位置に圧力がかかるため血流が悪くなり床ずれが生じて、治療を遅らせたり、症状を悪化させてしまうことがあると先生方に言われ、私たち医療従事者は、相手が「人」であり「命」に関わる仕事をするということを改めて考えさせられました。そして、身につけた知識と技術をこれからの学習に生かしていきたいと思います。

<b>奨学会からのコメント</b>	技術を身につける訓練はどのようなものでも大変だと思います。私たちは病を得て人間の体のはかなさを思い知り、小さな痛みにも怯える弱者であることを思い知ります。そのときにまず頼りにするのは看護師のたしかな技術と判断、よろしく願います。
-------------------	--

思っています。また、現在会計士業界では英語の力が必要とされるため、就職活動も視野に入れてTOEICや英語検定の勉強にも力を入れていきたいと思っています。受験勉強で終わりではなく、日々経済や会計基準は変化しているため、これからが本当に勉強をしていかなければならない時だと思って努力していきたいと思います。

<b>奨学会からのコメント</b>	まず公認会計士合格おめでとう。言及のとおり経済・会計基準は日々変化していますが、世界の潮流・歴史的背景を含めての理解でなければ、その変化の意味を深く読み解くことができないでしょう。その心構えの如何がこれからは問われていくと思います。
-------------------	--

する研究で、僕が将来的にやりたいこととは異なりますが、エンジンに関わる内容なのでこのテーマになったことにはとても満足しています。この研究テーマは企業との共同研究らしいです。つまり、まだ世に出ておらず、これから世に出ていくであろうという最先端の技術にいきなり取り組むことになりました。今欧州ではディーゼル車がかなり広まっていますが、日本では排気の問題でディーゼル車はほとんど存在しません。この研究が日本にディーゼル車を広める可能性を秘めていると考えるとわくわくします。頑張りたいです。しかし、研究は大学院入試が終わった後に本格的に始まります。まずは大学院入試です。かならず今年大学院入試に合格できるよう精一杯努力します。

<b>奨学会からのコメント</b>	専門的なことはよくわかりませんが、「排気ガスと素材の開発」を敷衍していくとエンジンの機能・形状も必然的に定まっていくのではありませんか。その第一歩である大学院合格の報せを待っています。
-------------------	--

害者に同情するの否か、またどの様に判断するのかを、統計的に解明していきたいです。法の制度設計に、人の判断プロセスを研究する心理学的アプローチから関わっていき、学会等で発表する予定です。

<b>奨学会からのコメント</b>	直近の日本人待望の研究・卒論テーマ。従来の司法制度は国家(司法)として被告の罪の是非を問い裁くのが主眼、「被害者」及び「被害者の家族」は証人として証言する以外裁判とは無関係と知って本当に驚いた。法の制度設計にぜひ関わって頂きたい。
-------------------	---